

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 1 No 4

4 号

平成5年9月1日

新生児医療の進歩

その2

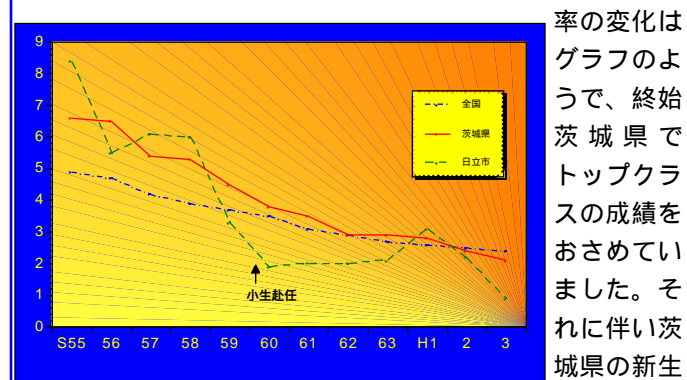
先月号の続きですが、覚えているでしょうか。新生児医療が進歩し、在胎28週1000g位なら、あまり心配は無いとお話ししました。

新生児（生まれて1ヶ月以内の赤ちゃん）の死亡率は、出生1000に対してどのくらいなのでしょう？。今から10年ほど前は約5ぐらいでしたが、新生児学の進歩により最近では、約半分程度に低下してきました。

小生が赴任して新生児集中治療室を作り上げた日立総合病院のお話しをしましょう。日立市は人口20万人、の茨城県第2の都市で、「この木なんの木、気になる木」の日立製作所があることでも有名です。日立総合病院は、日立製作所の病院で、日立市で最も大きく、市立病院の様な役割を担ってきました。その日立総合病院に生まれたばかりの赤ちゃんを集中的に治療する新生児集中治療室を開設することになり、昭和60年4月に、東北大小児科より派遣されました。グラフを見てもおわかりのように、日立市の新生児死亡率は、お世辞にも良いとは言えない状態でした。

開設の準備のかたわら、最も力を入れたことが、スタッフの意識の変革でした。新生児医療は単に小児科の一部ではなく、良い成績を得るためには、新生児学という考え方が必要であるということでした。まったく新しい医者が来て、勝手なことばかり言っているのでは、誰も付いてきません。体で見本を示すことが大切で、そのため何度徹夜したかわかりません。その甲斐あって、赴任した年の新生児死亡率は著明に低下し、茨城県および全国の平均を下回るだけでなく、一気に限界といわれる2.0を切り、1.9まで低下し、茨城県のトップとなりました。翌61年7月には新生児集中治療室が完成し、初代医長に就任しました。

この年には、茨城県に新生児搬送システム（生まれた病気の赤ちゃんを産院から新生児の治療施設に送るシステム）が生まれ、その中核病院となりました。その後の新生児死亡率の変化は

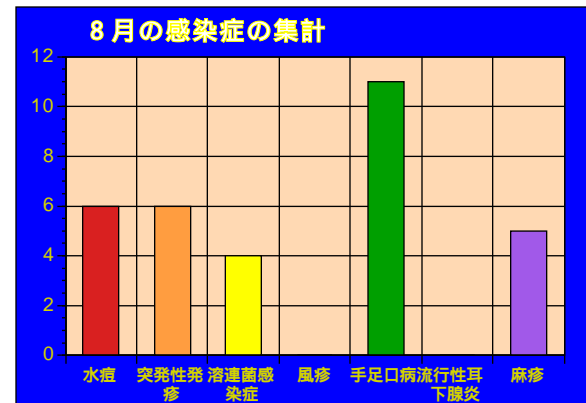


児死亡率が改善し、一昨年には全国のベスト10入りを果たしました。

その業績を認められ、退職時に日立市長から、感謝状を頂いたこと

は、以前に書いたので、ご承知の方も多いと思います。新生児医療に限らず、医療というものは、設備ということよりも、行う人の意識が、良い医療に結び付いていくようです。この経験を生かし、今度は、地域の人たちに貢献できるような医療を、スタッフ共々目指すつもりです。

8月の伝染性疾患をグラフにしました。先月に続き、手足口病も集団の中で発生しています。溶連菌感染症も相変わらずです。麻疹（はしか）が5人見られていますが、内3人は他院での院内感染です。グラフにはしませんが、とびひも多く見られました。



麻疹（はしか）について

咳、鼻水、発熱で始まります。最初は風邪と診断されることが多いようです。3～5日後熱の再上昇に伴い、発疹（赤黒いや汚いブツブツ）がでます。咳が長く続き肺炎を併発することもあります。予防接種をしていれば、まず心配ありません。思った以上に重い病気です。

MEMO MEMO

栄養育児相談

1日、22日（水）
13:30～
参加無料、栄養士担当

9月のお知らせ

予防接種

9月からは、普通通り接種可能です。ポリオが11月にあります。重ならないように受けましょう。

医学マメ知識

その4

喘息について

今回は、気管支喘息（喘息、小児喘息）についてお話してみよう。この話の中で、喘息の知識を得て、もう一度喘息について考えてみましょう。

喘息とは、どんな病気または状態なのでしょう？

その多くはアレルギーによって、気管支の先のほうが狭く（細く）なり、炎症を伴う状態です。気管支が狭くなるため、ゼーゼーして、苦しくなる（呼吸困難）のが主な症状で、これが喘息の発作と呼ばれるものです。気管の先端に炎症が起こるため、咳や痰も出ます。大きな子の場合には、胸や息が苦しいことを訴えますが、小さな子の場合には息が荒く、機嫌が悪い等が症状としてみられます。発作がひどいときには、咳があまりみられないこともあります。

アレルギーとは、どんなことですか？

アレルギーを起こしやすい体質の人に、外界からアレルギーの原因物質が体内に入ることによって起こる反応です。花粉症もその代表のひとつです。喘息を起こす、アレルギーの原因物質としては、ハウスダスト（家のなかのほこり）、ダニが多くみられますが、その他食べ物を含めてさまざまです。

喘息は、突然起こるものなのでしょうか？

アレルギーの原因物質が体内にはいれば、突然起こります。ハウスダストの場合など、ほこりが下に落ちてくる、真夜中に起こることがよくあります。しかし多くの場合は、風邪などをひくことによって、気道（気管支）の過敏性（反応のしやすさ）が高まり、起こります。

小さいときから、風邪をひくとゼーゼーしますが、喘息でしょうか？

2～3歳位までは、風邪をひくとゼーゼーする子が多くいます、この様な状態を喘息性気管支炎として区別することもあります。ゼーゼーの原因が気管支のこともありますが、鼻が原因となることも多くみられます。その子たちが、全部喘息になるわけではなく、むしろ喘息に移行することの方が少ないくらいです。ゼーゼーするだけでなく、呼吸の苦しくなる発作がみられ、御両親や兄弟に喘息、アトピー性皮膚炎等がある場合、喘息の可能性が高くなります。

咳が続いたときに、喘息だといわれたことがありますか？

風邪や気管支炎でも咳が続くことは良くあります。一般的には咳が続くだけで、発作がなく、聴診器でヒューヒュー等の音が聞かれない場合には、喘息と考えないほうが良いでしょう。聴診器でのヒューヒュー音は、気管支炎でも聞こえますが、繰り返し咳が続く場合には、病院を受診し、診察を受けて、喘息かどうかを診てもらいましょう。

検査をすれば喘息かどうか、判ると聞きましたが？

当院を受診している患者さん達のなかでも、以前に血液の検査を受け、喘息だといわれただけで、発作もないのに重症と言われたお母さんもいるようです。この血液の検査は、アレルギーを調べる目的で利用されています。アレルギーの有無は判りますが、たとえスコアが高くとも、喘息の重症度とは相関しない場合があります。喘息になったことのない人でも、アレルギーの体質

があれば陽性になることがあります。検査を希望する人は、申し出てください。（多少費用がかかります）

体質改善のお薬を飲んでいますが、長期に飲んでも大丈夫でしょうか？

漢方はわかりませんが、一般に処方されている薬のなかには体質を改善するものはありません。体質改善と称する薬は、ほとんどが抗アレルギー剤です。これはアレルギーの反応を抑えますが、元々もっているアレルギー体質を治す薬ではありません。

副作用は少ないお薬なので、長期に飲んでもあまり心配は入りませんが、投与しないで済めば、それにこしたことはありません。この薬の判定はとても難しく、自然の経過で喘息がおこらないのか、薬のために喘息が起らないかを区別することは困難です。そういう理由で当院では喘息がコントロールしにくい例にのみ投与を考慮しています。

喘息の治療には、どんな種類があるのでしょうか？

前にも話したように、喘息の病気の本態は、気管支が収縮する（細くなる）ことです。治療の中心となるのは、細くなった気管支を広げてやることです。気管支を広げる薬（気管支拡張剤）には2種類あって、ひとつは吸入と内服（メブチン、ベラチン）で使い、もうひとつは喘息特有の薬で内服（例えばテオロング、テオドル）と点滴で使います。吸入は、直接気管枝に働くため効果が早く出ますが、持続時間が短いのが欠点です。発作のある時には両方の薬を使い、吸入と内服を併用するのが効果的です。点滴は、発作がひどいときや、薬を飲んででも効果が無いときに行います。発作が続くと、水分がとれなくなり、脱水になり痰が出にくくなり、発作を余計に悪化させます。この様なときにも点滴が必要です。その他、痰を出しやすくする薬や、アレルギーを抑える薬を投与します。

喘息のお薬は、発作の起ったときだけ飲めばいいのでしょうか？

喘息の治療の中心となる薬は、飲むことによって血液中の薬の濃度が上がり、効果が出ます。一度休めば濃度が上がるまで時間が必要です。この理由から発作のある時は、薬のみ続けることが必要です。

喘息に対する注意にはどんなものがあるのでしょうか？

喘息という病気を理解して、必要以上の不安をもたないことです。子供に喘息に対する不安を与えないことも大切なもののひとつです。スポーツで体力を鍛えることも大切です。発作が起きたら早めに治療し、発作がおさまるまでちゃんと治療することです。過度の運動を避け、水分を十分与え、決められた通りに、薬を服用することも大切です。原因が判明した場合、その原因を取り除くことが必要なことは、言うまでもありません。

喘息を乗り越えるためには、病気に対する理解が必要です。喘息をもつお母さん達は、勉強し、子供達と一緒に、喘息を乗り越えましょう。

編集後記

今回は、少し余裕をもって、発行できました。医学マメ知識は、毎回同じ大きさのつもりでしたが、喘息は書くことが多くて、できませんでした。

前にも書きましたが、どなたか、育児奮闘記でも書いてくれませんか？何でも可です。



目次に戻る

前の号

次の号